



黄金色に輝く水田では立派な稲穂が実っている。長梅雨や猛暑を乗り越え、収穫の季節を迎えた農家の方々に敬意と感謝を申し上げたい。

この春の土作りから秋の稲刈りまでの約半年間に、経済活動を巡る環境は大きく変化した。県内では、こうした環境変化に適応するさまざまな工夫が見られる。今回は、これまで印象に残った身近な取り組みの一部を紹介したい。

最初は、非対面サービスの

日銀水戸事務所長 鈴木 直行

活用。オンラインを通じたモノやお金の取引、人の交流は、一段の広がりを見せている。県産品の取り寄せや食事のテイクアウトのサイトでは、地元の魅力を再発見しつつ、生産者や飲食店を応援でき

る。人気アニメの聖地の宿泊施設などを支援できる。

人の交流という面では、オンラインによる合同企業説明会が開催され、県外の学生も県内企業の門戸をたたきやすくなった。満員電車で通勤する都心の企業より地方の

する取り組み。一つ目は、屋外型サービス。このところ移動型スーパードが増えている。密でない屋外で、店員や近所の人とのちょっとした会話も

あつみつつ買物ができることあって、コロナ禍で外出を控えるシニア層を中心にニーズが高いという。

最後は、企業や業種を超えた人材交流。今後、感染症の影響が長くなると、余剰人員を抱える企業が増える可能性がある。県内では、

環境変化に工夫で対処

また、クラウドファンディングと呼ばれる、インターネットを通じて幅広い人々から資金を調達する手法も広く活用されている。例えば、将来利用可能な宿泊券の購入などを通じ、今困っている故郷や

企業に関心を持つ学生は、少なくないであろう。県内企業にとっては、人材獲得のチャンスが広がるのではない

中開催だった販売イベントを1日当たりの集客を抑えつつ、長めの期間にわたって開催し、売り上げ確保を目指す小売店の例や、②ビュッフェ形式から配膳形式のサービスに転換し、集客を目指す飲食

解消するプロジェクトが動きだしている。コロナ禍による雇用環境悪化の防止につながる意義深いプロジェクトとして、今後の取り組みに注目したい。

(次回は10月10日掲載)